

レジリエンスデザイン ワークショップ概要

2021.10.11

西村英伍

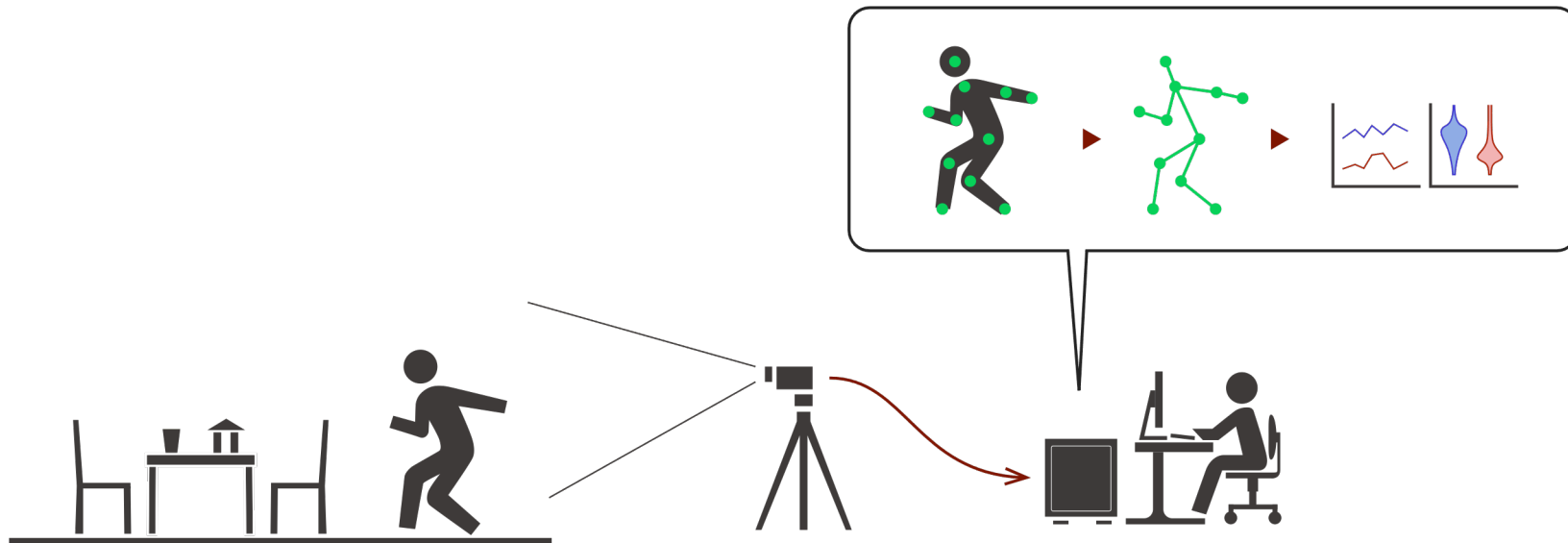
概要

- 時期 : 11月
- 日程 : 4コマ (+1週間程度の宿題期間)
- 参加単位 : 1名 (原則終始個人ワーク)
- 最大参加者数 : 10名以内

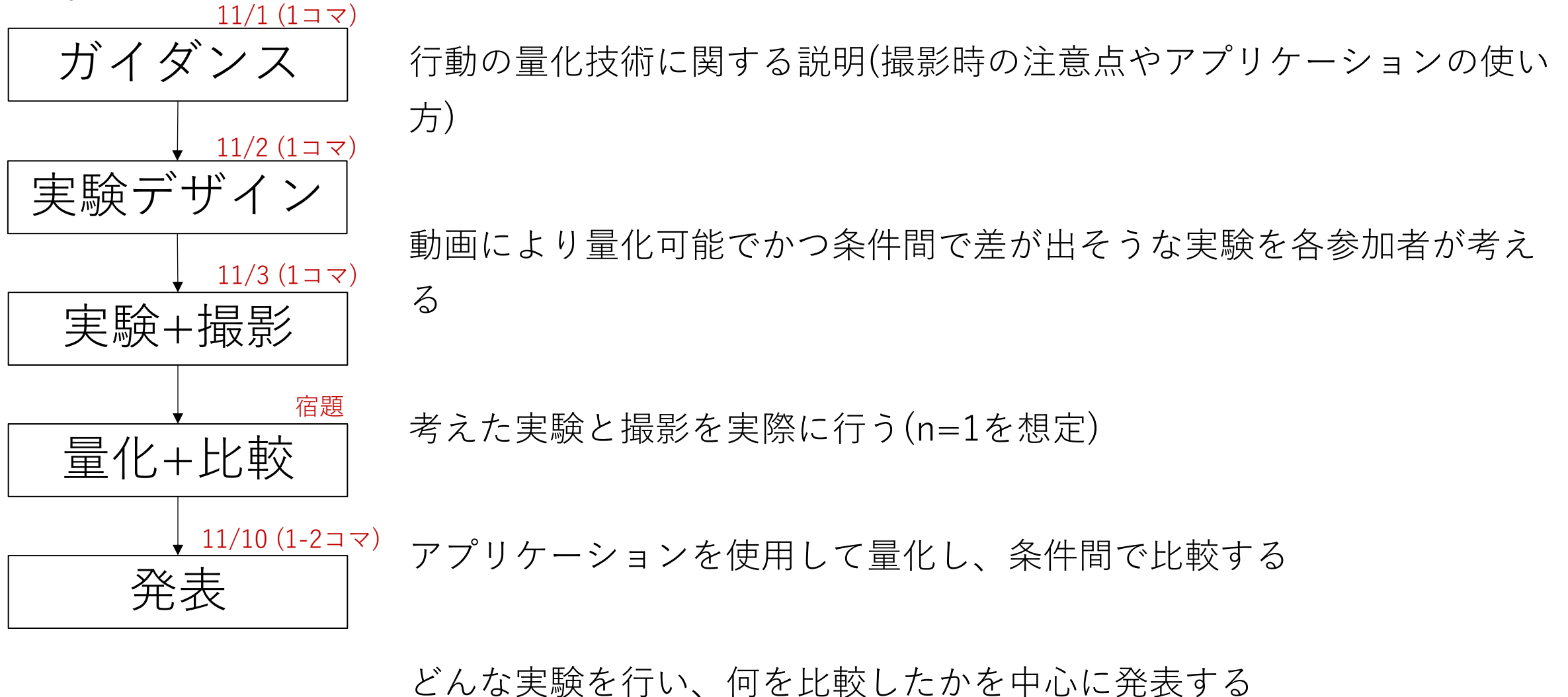
本ワークショップの目的

- 動画解析技術により行動を量化すると、行動の比較が可能になる

→ 本WSでは行動を比較するプロセスの体験を目的とする

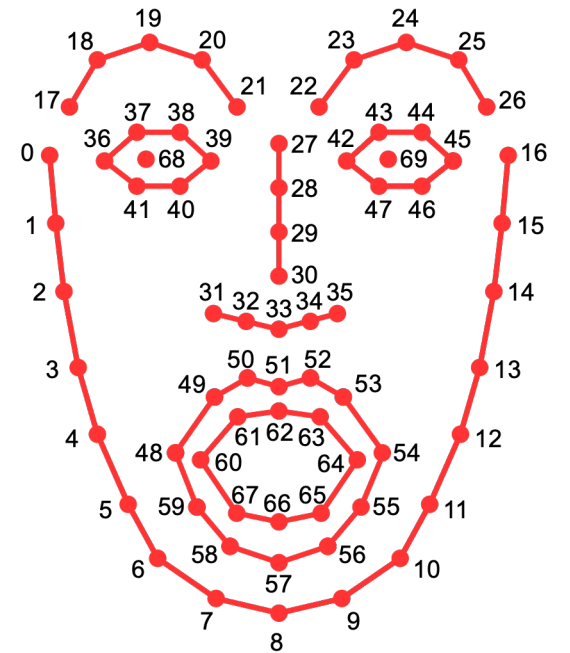
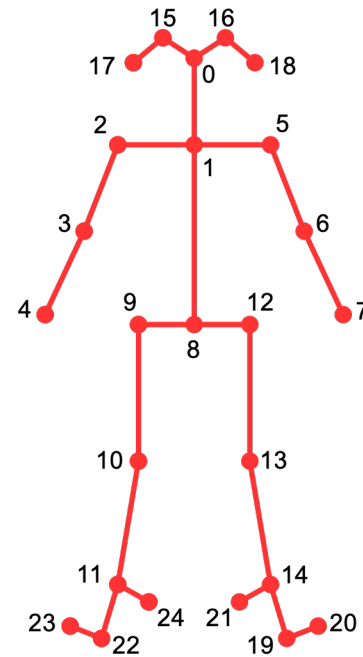
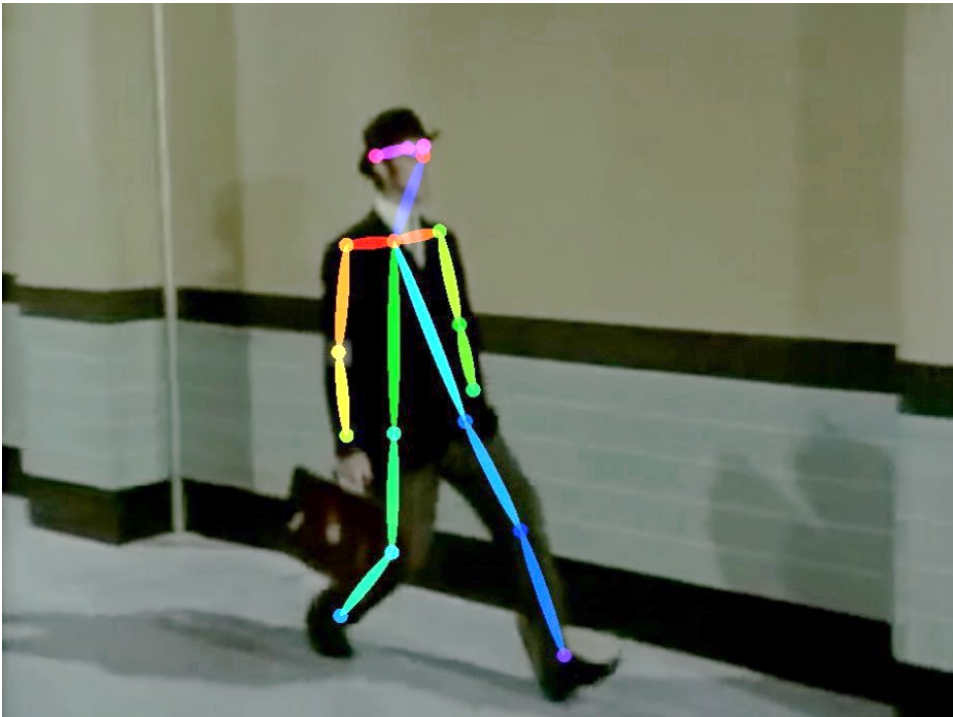


本ワークショップのプロセス



行動の量化について

- 体と顔の特定の点(キーポイント)を動画からAI(OpenPose)が自動で抽出し、x,y座標の時系列データとして記録する
- OpenPoseを簡単に使えるように、アプリケーションが提供されている



行動の量化の事例

- 具体的な内容が伝わる資料を作る必要あり
 - リモートミーティング中の表情分析
 - 共同作業中の人-人距離とフォーメーション(位置関係)の分析
 - 筆記中の腕の動きの分析

本ワークショップのレギュレーション

- 実験は原則1人で実施
 1. 実験者、被験者、撮影を1人でやるのでちょっと忙しいが、この制約があったほうが計画しやすい
 2. スマホが2-3個必要になる可能性があるため(撮影用、計時用、ゲーム用など)、協力が必要かも
- 2条件比較を行うこととする、以下から選ぶ
 1. タスクに集中 vs スマホで「オフライン恐竜ゲーム」を遊びながら
 2. タスクに集中 vs タスク前に動物の名前を10個覚えさせる
 3. 十分な制限時間 vs シビアな制限時間
- 両条件でタスクは同じ(どんなタスクを課すかを考える)、たとえば
 1. アイデアスケッチ10個などの創作的作業
 2. 箱詰めや運搬などの単純作業
 3. 鬼ごっこのようなゲーム

本ワークショップのレギュレーション

- 撮影条件の制約
 1. たとえば体育館の天井にカメラを吊るようなことはできない
 2. 使用できるカメラは原則として1台まで
- 余裕があれば行動以外のデータも取得する
 1. 課題前後の主観申告
 2. 性格特性
 3. 課題の成績